

ささえ村とみま村

(文と絵 新ひだか町)

むかしむかし、あるところに、大きな川を挟んで「ささえ村」と「みま村」という二つの村がありました。

ささえ村の人々は貧乏でしたが、みんな働き者で仲も良く、何事も協力しながら暮らしていました。

ささえ村には、なんでも「ぜいきん」というきまりがあったそうで、村長さんが村人全員から毎月決まった額のお金を集めていたというのです。

その「ぜいきん」は、道路を整備したり、頑丈な避難所を建てたり、村人たちが安い料金でお医者さんに診てもらったりするために使われていました。

しかし、村人は貧乏でその日食べるのにもひと苦労でしたから、その「ぜいきん」に対して、「道路をきれいにしなくて生きていけない」「村人はみんな健康だから、お医者さんに診てもらわなくて平気」といった不満を持っている村人も多くいました。

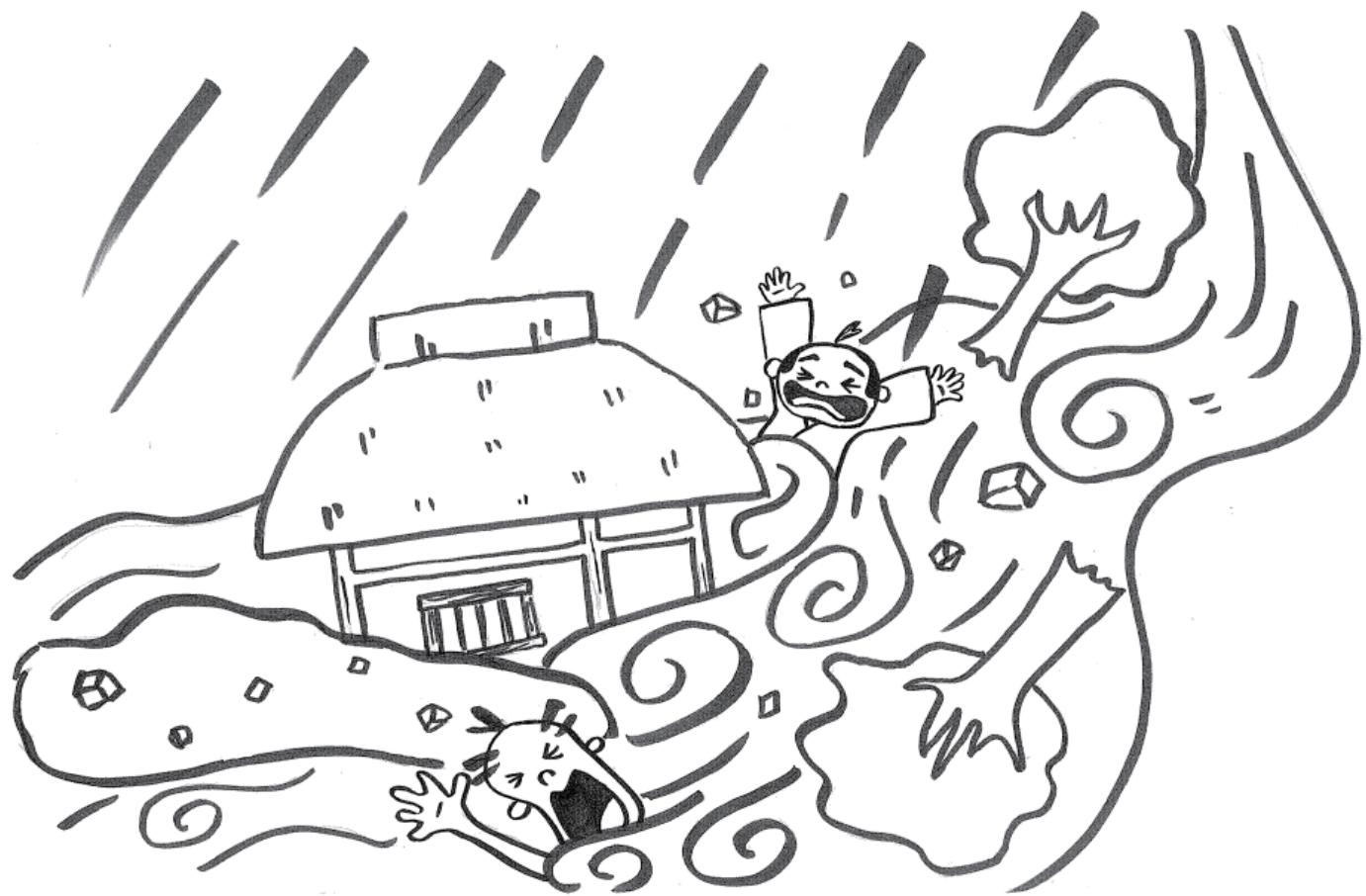
そんなこともあって、ささえ村では「ぜいきん」を集めるのをやめようかどうか話し合われていました。

一方、みま村の人々はみんなお金持ちで、たいへん裕福な生活を送っていました。

当然、お金をたくさん持っていますから、道路がガタガタでも大きな乗り物に乗って移動するので、あまり気になりませんでした。

また、村には学校やお医者さんはありませんでしたが、乗り物に乗ってとりの町まで行けばいいし、たくさんお金を出せばお医者さんも家まで来てくれますので、まったく困ることはありませんでした。

みま村の人たちは、自由気ままに周りを気にせず自分のことだけを考えて生活していましたから、ささえ村みたいな「ぜいきん」を集めることも一切していませんでした。



そんなある日のことです。

平和な二つの村に、大きな大きな台風がやってきたのです。まるでバケツをひっくり返したような大雨と、木も家も吹き飛ばされるような強い風が吹き荒れました。

そして、ささえ村とみま村の間にある川が氾濫し、両方の村に大洪水が襲ってきました。

今まで経験したことのない台風と大洪水に、みま村の人々はわれさきにと大きな乗り物で逃げようとしたのですが、押し合いへし合いとなり、なかなか逃げるできませんでした。

大洪水の大きなうねりの中に、家や人々は流されてしまい、村は跡形もなく、ぐちゃぐちゃになってしまいました。

一方、ささえ村は、みんなの「ぜいきん」で頑丈な避難所を建ててい

ましたし、普段から協力しながら暮らしていましたので、村人みんな避難することができ、助かりました。

三日三晩続いた台風もようやく過ぎ去り、外に出ると、ささえ村もみま村も跡形もなく無くなっていました。

残っていたのは、大量の泥や洪水で破壊された家の破片だけでした。

怪我をしてしまった村人も大勢いました。みま村の残った人々は、洪水でお金も流されてしまったので、何もできず途方に暮れていました。

ささえ村の人々は、避難所に保管していた「ぜいきん」を使ってお医者さんや呼んで怪我を診てもらい、とりの町の町の人々を雇いながら、みんなで協力して泥を撤去し、家を建てました。

そう、ささえ村の村人たちが不満に思い、「集めるのをやめようか……」と悩んでいた「ぜいきん」。

なんでも自分のお金で解決していた、みま村の村人たちが必要ないと思っていた「ぜいきん」が役に立ったのです。

ささえ村の村長さんは言いました。

「みま村には「ぜいきん」がないので、みんな困っておる。みま村の人々を助けてはどうか」

ささえ村の村人たちは、貧乏でもみんなで協力しながら暮らしていたので、「困ったときは助け合うのが当然」と村人みんなが村長さんの話に賛成しました。

家もお金もすべて無くなってしまったみま村の村人たちは、ささえ村の「ぜいきん」で助けもらうことができました。

ささえ村とみま村の人々が口をそろえてこう言います。

「ぜいきん」のおかげで、命が助かった」、「ぜいきん」のおかげで家が建てられた」、「ぜいきん」を集めていればこんなに苦労しなかった」と。

ささえ村とみま村の村人たちは今回のできごとで「ぜいきん」の重要性を理解したのです。

これからは自分や村の人たち、困った人たちのために、「ぜいきん」を集め、きちんと納めていこうとそれぞれの村の村人たちは誓いました。

ささえ村とみま村の村人は「ぜいきん」のきまりをきちんと守り、「ぜいきん」を通して助け合い、とても幸せな村になりました。



9月20日

木全照子さんが99歳の誕生日を迎え、入所先のグループホーム「ほほ笑みハウス」(静内中野町)で酒井町長から祝状、町社会福祉協議会・川越会長から記念品が贈られました。木全さんは網走市出身で、農業を営む故・晃さんと結婚し、4男3女の子どもに恵まれました。昭和45年に旧三石町に移り木工場などで働き、晃さんの他界後は女手一つで子どもたちを育て上げました。木全さんは昔から趣味の編み物や小物づくりを現在も続け、元気に生活しています。



10月12日

田中ヨシさん(静内春立)が10月8日に99歳の誕生日を迎え、家族による白寿祝いが開かれた町内の料理店で、酒井町長から祝状、町社会福祉協議会・川越会長から記念品が贈られました。田中さんは旧静内町出身で、軽種馬生産を営む故・栄作さんと結婚し、1男5女の子どもに恵まれました。田中さんはとても元気で、現在も高齢者の寿大学に参加し、今年も老人スポーツ大会にも出場。月2回の温泉バスによる静内温泉の入浴も毎回楽しみにされています。



白寿祝状授与



10月1日

全国の小中学生が騎手を務めるポニー競馬選手権『第6回ジョッキーベイビーズ』の札幌地区予選会で見事優勝し、10月12日に東京競馬場で開催する決勝大会に出場を決めた鎌田彩緒さん(静内中1年)が、役場静内庁舎を訪れ、酒井町長に健闘を誓いました。また、鎌田さんの指導にあたり、ライディングヒルズ静内でチーフインストラクターを務める榎岡定雄さん(40)も、第66回全日本障害馬術大会のダービー競技で優勝を果たし、酒井町長に大会結果を報告しました。



10月9日

10月17日から21日に長崎県で開かれる『第69回国民体育大会』の少年馬術競技に出場を決めた小山達平君(静内農業高3年)が、役場静内庁舎を訪れ、酒井町長に健闘を誓いました。小山君が乗馬するのは、同校が生産し乗用馬として管理している「サクラホウジュ」。小山君は「本校生産馬と一緒に全国大会に出場でき、優勝目指して頑張りたい」と抱負を述べ、サクラホウジュと関係が深い酒井町長は「いい報告を待っています」と激励しました。



競馬・馬術で全国大会出場報告

市町村に納める主な税金

普通税	市町村民税	市町村に住んでいる人が納める税金。住民税とも呼ばれる。個人に課税される「個人市町村民税」と法人に課税される「法人市町村民税」がある。個人市町村民税は、その年の1月1日に居住する市町村で、前年の所得に対して課税される。
	固定資産税	土地や家などを持っている人が納める税金。
	軽自動車税	軽自動車や原動機付自転車などを持っている人が納める税金。
	市町村たばこ税	たばこを買った人が負担する税金。
目的税	入湯税	温泉など、鉱泉浴場に入る人が負担する税金。
	都市計画税	土地や家などを持っている人が都市計画事業を行っている市町村に納める税金。
	国民健康保険税	国民健康保険に加入している世帯が納める税金。

市町村や都道府県に納める税金は「地方税」といい、このほかにたくさんあります。また、所得税や法人税など、国に納める税金は「国税」といいます。

たばこを購入する時は新ひだか町で！
※たばこの吸いすぎには注意しましょう。



税を考える週間

11月11日から17日は

私たちが納めた税金は、みんなが安全に快適に暮らせるように公共施設やさまざまなサービスに使われています。例えば、学校や道路、消防、警察、ごみの収集、水道など、私たちの暮らしを支える身近なものばかりです。もし、税金がなかったら、

一人当たりでは (平成26年度の当初予算)

一人当たりが納める町税の額は

11万2,321円

一人あたりにかかる行政サービスは

108万4,687円

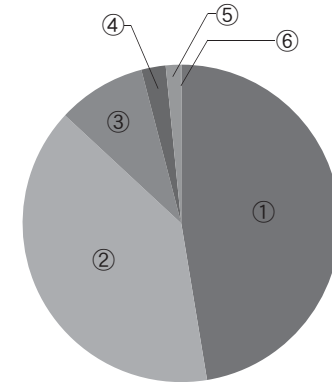
不足部分は国や道からの補助金や借入金、使用料などで賄っています。

町の税収額 (平成24年度の決算)

27億5,371万円

金額の多い順に

①	■ 固定資産税	13億516万円
②	■ 町民税	10億8,821万円
③	■ たばこ税	2億4,873万円
④	■ 都市計画税	6,835万円
⑤	■ 軽自動車税	4,236万円
⑥	■ 入湯税	90万円



今まで当たり前だったことができなくなり、困ることがたくさんあります。火事になっても消防車が来ない、急病人がいるのに救急車を呼んでも来ない、ごみの収集がないのでまちがごみだらけ…。税金は、生活に欠かせない身近なものに使われており、みんなが快適で豊かに

暮らすために欠かすことができません。そのためには、決められた期限までにきちんと税金を納めなければなりません。納税は憲法で定められている「国民の義務」です。「税を考える週間」を機に税金の大切さについて考えてみてはいかがでしょうか。